

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	技能修得到達度評価				
担 当 者	澤村 暢、M科教員				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.5	4.6	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では臨地実習前の総復習として知識、技術、検査データの読み方について学んできました。皆さん自身も意欲的にこの授業に取り組んでいただき、その成果も実感していただけているようで安心しました。この授業を終えることで、自信をもって臨地実習に臨んでいただけていると思います。練習時間が短かったという声はいくつかありましたが、限られた時間の中で達成することも、この授業の一環となっていますのでご理解ください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	検査管理総論				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.1	4.1	4.0	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>かつて多くの検査部門では、トップ（部長）は医師、現場責任者は臨床検査技師長という組織体制が一般的でした。しかし現在では、臨床検査技師が専門技術者であると同時に、組織を統括し、マネジメントを担う体制が増えています。そのため、専門知識や技術を磨くだけでなく、管理運営の視点を持つことが重要になっています。本講義は、そのような視点を身につけることを目的の一つとしています。新カリキュラムでは、2 年次後期に専門科目と並行して学べるよう配置されています。本講義では、検査室の管理運営、医療安全、精度管理、検査結果の評価、進路など、すべての検査業務に共通する内容を扱っています。そのため、特定の検査技術を学ぶ専門科目とは異なり、専門性が見えにくく、難しく感じた人もいたかもしれません。</p> <p>授業評価では、「診察から報告までの過程を知ることができた」という意見がありました。日常に行われている検査業務の流れは当然理解されていると思いがちですが、改めて教科書の流れに沿って丁寧に説明することの大切さを感じました。また、講義の中で体験談を交えて話すこともありましたが、「先生の体験談を交えた話が興味深かった」との評価もありました。現場での経験談が、皆さんにとって新鮮に感じられ、将来の自分の姿を思い描くきっかけになっていれましょうと思います。</p> <p>特に後半で学んだ精度管理は、臨地実習でもその重要性が再認識され、「必ず見学」とされている項目です。実際の現場を見る前に理論を学ぶことは、イメージしにくい部分もあったと思います。しかし、理論を理解せずに現場を見学しても、その意義を十分に捉えることはできません。事前に理論を学んでいるからこそ、実習での学びが深まります。</p> <p>本講義は、正確かつ迅速な検査結果を報告するために不可欠な考え方を体系的に扱っています。卒業生からは、「社会に出て初めて検査管理総論の重要性が分かりました」という声をよく聞きます。この科目は、国家試験対策だけでなく、専門職としての責任と判断力の基礎を学ぶ科目です。皆さんが将来、医療現場で働く中で、本講義で学んだ内容の意義を実感する日が来ることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学Ⅱ				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.0	4.0	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>臨床化学検査学（Ⅰ・Ⅱ）では、国家試験に出題される内容や重要事項を確実に理解することを目的に、教科書に沿った講義を行っています。教科書中心の授業は受け身になりやすいため、動画教材やスライドを活用し、できるだけ理解しやすい形で進めました。</p> <p>授業では重要な部分にラインマーカーを引くことも大切ですが、マーカーを引くことに集中しすぎると、内容の理解がおろそかになることがあります。そこで、あらかじめマーカーを付した教科書 PDF を manaba にアップし、予習段階で自分の教科書にマーカーを引いてくる方法を取り入れました。これにより、学生が授業中に内容の理解へ集中できるよう工夫しました。授業評価では、「マーカーが引いてあるので、大事なところが分かりやすい」という意見があり、この方法が理解の助けになっていたことが分かりました。また、「小テストがあることがよい」という意見もありました。この小テストは、教科書を見ながら該当箇所を確認し、知識を整理することを目的としています。その意図が伝わっていたことをうれしく思います。</p> <p>本講義は「臨床化学検査学実習」と進行を連携させて組み立てていますが、「講義と実習が結びついていて良かった」という意見もあり、講義と実習の関連性を実感してもらえたことを心強く感じました。</p> <p>授業評価調査では、「板書、スライド、教材の使い方は適切だった」に 76% が肯定的に回答しており、予習でのマーカー活用と授業後の小テストによる復習が、理解を深めることにつながったと考えています。</p> <p>予習は大変だったかもしれませんが、教科書につけたマーカーは、3年次に B6 カードを活用して国家試験対策を行う際、過去問の内容と対応づける際の重要な指標となります。そのときに、マーカーをしてきた意義をきっと実感できるはずです。そして、本講義で身につけた基礎知識と学習習慣は、必ず国家試験、そして臨床の現場で皆さんを支える力になります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学実習 I				
担 当 者	林伸英・澁谷雪子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>今回の実習では、A・B グループに分け、以下の 3 段階で実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習に関連する講義（遠隔：YouTube） ② 実習の具体的な操作（遠隔：YouTube） ③ 実際の実習（対面） <p>遠隔での講義と対面実習を組み合わせた「ハイブリッド実習」は、「自分のペースで学べる」「じっくり理解できる」「何度も繰り返し学習できる」「わかりやすい」といった点で、多くの学生にとってメリットがあったと考えています。実際に、大半の学生（約 96%）が実習前に 1 時間以上かけて予習に取り組んでいました。一方で、遠隔での予習を行わずに実習に臨むと、操作が十分に理解できず、班での実習においてペアの学生に負担をかけてしまうという課題も見られました。実習オリエンテーション時に事前学習の徹底を指導しましたが、授業外学修時間が 30 分未満の学生も一部（約 4%）見受けられました。</p> <p>実習後の授業評価では、「予習をしていない学生がいると、ペアや同じテーブルの学生が、予習動画で説明されていた内容まで教えなければならず、実習に集中できない」との意見もありました。今後は、実習の質を維持し、全員が円滑に学習できる環境を整えるため、閲覧履歴を確認のうえ、事前学習の徹底をより明確に指導していきます。</p> <p>レポートについては、従来の自由記載形式ではなく、記載すべきポイントを明確に示したプリント形式で提出してもらいました。この方式については、「実習中に記入できる」「負担が過度にならない」「書くべき内容が明確で取り組みやすい」といった意見が多く、概ね好評でした。</p> <p>学生による授業評価調査では、「この授業に意欲的に参加した」90%、「レポートや課題のチェック・指導が適切だった」88%、「この授業を受けて満足している」82%と、高い評価を得ることができました。</p> <p>遠隔で事前に内容や操作を学び、実習の目的と流れを理解したうえで対面実習に臨むという方法は、皆さんの主体的な学習につながったと感じています。一方で、新カリキュラムのもと、2 年次後期からの専門実習を難しく感じた人もいたかもしれません。続く「実習 II」では、不十分と感じる点について補足解説を加えながら、より理解が深まるよう進めていきます。実習は、</p>					

準備をしてきた人ほど深く学べます。学びを自分のものにしようとする姿勢を、これからも大切にしてください。

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	解剖組織学				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>今年度は自由記載欄にコメントはありませんでした。例年、「スライドやプリントが見やすかった」という意見と、「スライドの内容が多すぎて見づらかった」という両極の意見をいただいております。その都度少しずつ修正を重ねています。今後も、配布資料の内容や分量について、詰め込み過ぎず、かといって簡略化し過ぎないことを目標に、工夫を続けていきます。</p> <p>また、話すスピードや間の取り方にも注意し、適切な箇所で設問を取り入れるなど、皆さんの集中力が持続するよう努めていきたいと考えています。</p> <p>2年次には、病理学および一般検査学・一般検査学実習でお目にかかります。いずれの科目も解剖学の知識が必要となるため、各講義の導入部分で解剖学に関する内容を取り上げます。本講義で使用した教科書『最新臨床検査講座・解剖学』は、約200ページとコンパクトにまとめられており、2色刷りの図もシンプルで見やすい構成になっています。解剖学の教科書は、いつでも取り出せる場所に置いておいてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	一般検査学実習				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>「授業の説明が長い」「実習プリントが見にくい」などのコメントをいただいた一方で、「尿検査について詳しく学べた」「操作の手順や反応の仕組みが分かりやすい」といったコメントもありました。今後は、必要な説明をできる限り簡潔に分かりやすく伝えられるよう、さらに工夫していきたいと考えています。また、実習書についても例年少しずつ見直しを行っていますが、実際の実習工程がどこに記載されているのかが一目で分かるよう、より分かりやすい構成に改善していきたいと思えます。</p> <p>アンケート結果の「I. 学生自身のポイント」では、学科平均が 3.9 であるのに対し、本科目は 4.4 と高い結果となりました。このことから、皆さんが各回のレポートや尿検査パンフレット、尿沈渣 My ハンドブックの作成に熱心に取り組んでくださったことがうかがえます。</p> <p>3 年後期に臨地実習へ出た際には、尿検査や尿沈渣の実習をすることになります。ぜひ自作の My ハンドブックを大いに活用し、さらに臨床現場で学んだ内容を書き加え、より充実した一冊に仕上げただければ嬉しいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生命科学				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>1年後期になって、「難しい科目が増えてどうしよう」と思った方は多かったと思います。この時期は、専門科目（検査学）を学ぶために必要不可欠な基礎知識を積み上げていく時期でもあります。</p> <p>「生命科学」は常に進歩し続けている学問で、テキストの内容もどんどん書き換えられています。特に後半の内容は、これから皆さんが専門科目で疾患の成り立ちと診断・治療について理解するうえで重要な部分です。</p> <p>2年になると専門科目も増えて、今まで以上に授業外学修の重要性が増してきます。「生命科学」でつけた学修習慣をキープして先に進んでいってください。学び続けることで興味もわいてきます。</p> <p>多くの方からコメントをいただきました。ありがとうございます。</p> <p>評価していただいた点は…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント（穴埋め式）、スライド、動画 ・既習の知識や他の科目との関連付け→ありがとうございます。「+α」の内容にはなるのですが、すべての科目がヒトという生き物の中でつながっていることを感じていただきたくて、意識して話しています。 ・時事問題→最初の新聞紹介でしょうか。それともワトソン博士逝去のニュース？ <p>改善点としては…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードが早い→早口、意識して改めます。 ・スライドがわかりづらい→授業後に具体的に指摘していただけると、改善できます。 ・プリントの穴埋めを増やしてほしい→そういう声があるならば… 					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	生理機能検査学Ⅲ				
担 当 者	今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価にご回答いただき、ありがとうございました。</p> <p>全体としてよい評価をいただき、うれしく思っています。特に、話し方や教材の使い方、授業の進め方について前向きに受け取ってもらえたことは、今後の励みになります。</p> <p>自由記述では、「中間試験してくれるのめっちゃ嬉しいです」というコメントもありました。前期の「生理機能検査学Ⅱ」と同様、定期試験だけでは十分に出題できないという事情もあり中間テストを実施しましたが、皆さんにとっても学習の助けになったようで安心しました。一方で、「教科書に載っていない部分は、穴埋めされたPDFがほしい」という意見もありました。次年度に向けて、より学習しやすい形を検討し、改善していきたいと思えます。</p> <p>呼吸器の分野は、用語・基準値・検査の見方など、覚えることが多い領域です。最初からすべてを深く理解しようとするのが難しく感じやすいので、まずは授業で扱った基本事項をしっかり覚えることが大切です。3年前期からは「臨床病態学」が始まり、検査で得られる所見を病態の理解につなげていく学習が本格的に始まります。これまで学んできた内容は、今後の臨地実習や国家試験にもつながる大切な基礎になります。日々の学びを少しずつ積み重ねながら、知識を「覚える」だけでなく「使える」形にしていってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	生理機能検査学演習				
担 当 者	② 砂見愛子、今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>今回の演習は、これまでに学んできた生理機能検査に関する知識を活用し、症例の解決に取り組むことを目的として実施しました。できるだけ能動的に参加してもらいたいと考え、口頭で回答してもらおう場面も多く設けましたが、自分の担当でない場面でも積極的に調べ、自らの考えを導き出そうとする姿勢は大変素晴らしかったと思います。</p> <p>本演習は、生理機能検査の総まとめとして広範な内容を扱い、さらに臨床症例を題材としたため、難しく感じた方もいたかもしれません。しかし、皆さんが主体的に取り組んでくれたおかげで、非常に充実した時間となりました。</p> <p>この演習を通して、生理機能検査の面白さや奥深さを実感し、今後の臨床検査技師としての歩みに役立てていただければ幸いです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理検査学				
担 当 者	布引 佐野 梶山				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.1	4.2	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>講義を通じて理解を深めていただけたことと思います。3年前期では「実習Ⅱ」として、より実践的な技術を学ぶこととなります。そして、後期には病院での現場実習が始まります。ぜひ楽しみにしててください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理検査学実習 I				
担 当 者	布引 佐野 梶山				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.2	4.1	4.3	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>皆様のご理解により薄切のケガもなく順調に実習を終えることができました。病理検査の基本技術が身についたと思います。コメントを書ってくれた方ありがとうございます。次年度授業の参考にさせていただきます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	基礎分析実習				
担 当 者	溝越祐志、伊藤洋志、山本佐知雄				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.6	4.7	4.6	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>皆さん、実習お疲れさまでした。</p> <p>今回の実習は、器具の使用方法など基礎的な手技を中心とした内容で、単調に感じる場面もあったかもしれませんが、しかし、レポート作成も含め、皆さんが真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。よく頑張っていたと思います。</p> <p>実験器具の正しい取り扱いは、今後のすべての実習や検査業務の土台となる大切な技術です。今回行ったことを少しでも記憶にとどめ、次の実習に活かしてもらえれば嬉しく思います。</p> <p>さて、授業評価の結果ですが、今回コメントの記載はありませんでした。特に改善点については、率直な意見をぜひ書いてください。皆さんの声は、来年度の後輩たちのより良い学びにつながります。遠慮なく記入していただくと大変ありがたいです。</p> <p>これから多くの実習が続きます。</p> <p>「実習前に準備すること」「実習中に意識すること」「実習後に振り返ること」を大切にしながら、一つひとつ着実に力を伸ばしていってください。皆さんの成長を期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	遺伝子・染色体検査学				
担 当 者	溝越祐志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.4	4.5	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>今回の授業評価では、総合評価 4.4 と学科平均を上回る結果をいただき、皆さんが意欲的に取り組んでくれたことに感謝しています。一方で、「進行が速い」「スライドが見えにくい」といった貴重な意見もありました。内容を詰め込みすぎず、理解の時間を確保することの大切さを改めて感じています。来年度は進行配分や教室環境にもより配慮し、さらに分かりやすい授業を目指します。</p> <p>遺伝子・染色体検査は、がん医療や出生前診断、感染症診断など現代医療を支える重要な分野です。目に見えない分子や染色体を扱うため抽象的に感じることもありますが、その基礎理解が臨床現場での判断力につながります。皆さんには、授業を受け身で終わらせるのではなく、予習・復習を通して理解を深め、自ら考える姿勢を大切にしたいと思います。今回の学びが、今後の実習や臨床現場での力につながることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	遺伝学				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>遺伝学は難しい、苦手、と思う学生が多い。特にメンデルの法則を初めとする古典的遺伝学ではエンドウの話に始まり、計算を伴うので尚更かも知れない。</p> <p>それらは遺伝学を学ぶ上で避けて通れない基本であるが、臨床検査技師を目指す諸君にはそのような遺伝学では無く、遺伝子の本体である DNA に直接関わる分子遺伝学に区分される分野のほうに興味があると思う。</p> <p>分子遺伝学の進化はとても早い、その基礎となるのは AT(U)GC の 4 塩基であり、基本をしっかり理解したら、臨床検査の現場で困ることは無いだろう。難しく考えず、基礎を理解する姿勢を忘れないで欲しい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	文献購読				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>文献を通して、知らない事項を理解すればさらに興味が更にわき、新たな疑問が生じてもっと調べたくなる。英語論文も同様に読むコツが分かると、知識を得るためにドンドン読みたくなります。この習慣は自己成長の秘訣で、文献購読での体験を大事にしてさらに成長を願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	総合医学検査演習				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.7	4.1	4.1	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>何事も繰り返せば自信もついて目標を達成できます。</p> <p>国家試験を受けた際の緊張は想像以上だったと思いますが、その緊張を克服できた理由は総合医学検査演習は国試形式で演習を繰り返し、試験中の時間配分感覚をつかみ、マークミスを防ぐことの重要性を修得できたことも大きいでしょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	総合医学検査特論				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.4	4.4	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>国家試験は基本を忠実に学修していれば解けることを実感出来たと思います。覚える基本や理解する基本が多いだけに、地道に取り組むことが大事で、一種のトレーニングとも言えます。これからも基本を大事にし、社会の役に立てるように活躍を願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	卒業研究				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	4.1	4.1	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>研究は実習と異なり答えは分かって無いので、自身の出した結果が正しいかを自身で示すことが必要です。そのために皆さんは知恵を出し合い、立派に成果をあげました。今後もこの経験を大事に、成長されることを願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	薬理学				
担 当 者	米田孝司、澁谷雪子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>薬理学は、薬物動態などの薬の基礎を澁谷が、各薬物の作用などの薬理学を米田が担当しました。</p> <p>皆さんからの評価結果は、I 学生自身が 3.5 (学科平均との比 0.90)、II 授業内容が 4.2 (比 1.00)、III 授業方法 4.4 (比 1.02)、IV 学習成果 4.3 (比 1.00)、V 総合評価 4.4 (比 1.02) でした。各設問では、皆さん自身の評価 (カテゴリー I) を除き、皆さんから私たちへの評価 (カテゴリー II～V) は、学科平均との比は 0.99～1.04 と高評価でした。その中で最も高評価だった設問は、「聞きやすい話し方だった」「板書、スライド、教材などの使い方は適切だった」(比 1.04)、「授業はわかりやすい内容であった」「授業の進行速度は適切だった」(比 1.03) でした。コメントには、「澁谷先生の板書が見づらかった。(板書を写す時間が短い、色が多すぎて何が大事かわからない。)」がありました。</p> <p>臨床検査と関係のある薬理学 (薬) であるため、少しでも皆さんに薬について知ってほしいと思って授業をしました。少しでも取り掛かりやすいように図に示すなど工夫をしましたが、いかがだったでしょうか。</p> <p>設問の評価点とコメントでは逆の回答であるように思いますが、澁谷は限られた時間の中で、皆さんにとって初めての内容に興味をもていただきたいという焦った気持ちがあり、皆さんのなかにはもっとじっくり教えてほしいという気持ちがあり、その相違での結果だと思えます。4 年生となって他の授業などでもお会いすると思います。その時は、気を付けます。が、もし「まだ早いぞ！」と感じた時は、遠慮せず、その場で教えてください。</p> <p>この授業を履修したことで、薬物と検査が関係していることを学んだと思います。学んだ！という自信をもって、薬に向かってください。将来、臨床検査技師として現場で、異常値が出たとき・普段と違う状況のときに、薬が原因かもと、薬についても調べていただければと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	生理機能検査学実習 I				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。全体的に高評価、且つ全ての項目で学科平均を上回っていました。特に「授業以外に学修した時間」や「自分で調べ、考える姿勢が身についた」などの項目で高いポイントでした。これは、皆さんが予習やレポート課題に多くの時間を使った結果と推察され、皆さん自身が真剣に実習に取り組んで頑張った成果だと思います。頂いたコメントでは「質問をする時間があって良かった」とのコメントに代表されるように、実習では座学の知識をベースに実践的な技術を積み上げていくため、一つの検査を完成させるため、知識も大事であり、また知識を定着させるためにも、実習の時間を大事にして、且つレポートで復習し、さらに疑問だった点をしっかりと洗い出していくことで、知識も技術も修得できますので、これからも疑問点を残さないように取り組んでいきましょう。</p> <p>また、「レジュメを manaba にあげて欲しい」というご意見がありました。現時点では公平性を保つため印刷物を渡していますが、時代はペーパーレスですし、全ての学生の環境が整えば、こちらの手間やコストも省けるため、manaba にアップするという方向に移行していくと思います。移行期間として配付資料と manaba の併用期間を設けても良いかと考えています。</p> <p>レポートは大変ですが「自ら考え、調べ、それらをアウトプットしていく」という作業が、皆さんの力になり、知識や経験を自分のものにしていく重要なプロセスなので、(記載すべき内容は精査の上、今後も適宜削ることを考えていきますが) これからもご自身の学修のために、しっかり予習をして実習に臨み、復習としてより質の高いレポートを作成していきましょう。今回もとても質の高いレポートが散見されました。お友達の良い点などを聞くなど、教え合いながら頑張ってください。</p> <p>また、実習時間中も、協力してグループのメンバー同士、あるいはグループを越えて教え合いながら、限られた時間の中で効率よく進めているチームワークも見られました。時間を無駄にすることなく、共に挑戦しながら進めていく皆さんの姿勢は、現場に出ても必ず良いお仕事が出来ると信じていますので、大事にしていってください。</p> <p>さらに、接遇についても積極的に声を掛け合ったり、相手の立場に立って考え、行動したり反省したりする様子が窺えました。何事も、初めは失敗もあるかもしれませんが、不安もあると</p>					

思います。ですが、学内実習では（友達同士であっても誰に対しても常に気遣いや配慮を欠かすことなく）学生さん同士でお互いに失敗をしたり、改善策を練ったりしながら、今しか出来ない経験を沢山してください。必ず将来に生かされると思います。生理機能検査は患者様だけでなく、機器や周辺環境、また患者様のご家族の方々に至るまで、多く人も物も状況も見る必要があり冷静な対応も必要ですが、とても面白い学問であり、実践の科学です。来年度も予習から積極的に取り組んでいきましょう。皆さんにとって充実した実習になるよう、改善策や皆で学ぶための良い案があれば、その都度に取り入れていきたいと思いますので、引き続きご協力をお願いします。3年次も頑張りましょう！（循環器担当：浦）

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学Ⅱ				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.6	4.7	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。公衆衛生学という幅広い分野を、1年の前期から2年の前期にかけて一通り学んでいただきながら、日常生活や専門知識と結びつけて考え実践する習慣を身につけることを目指して講義を準備しました。1年後期は、成人、母子、高齢者というライフステージ別、学校保健、産業保健、環境保健という地域保健とは異なる場、障害者福祉・精神保健、歯科保健・栄養、感染症、食品衛生という全ての世代に関わる健康課題、そして狭くなった地球環境を含めた国際保健について学びました。ほとんどの学生さんが、毎回の課題シートに向き合い、様々なコメント・意見を寄せていただいたことに心から感謝します。「毎回、前回の課題の振り返りをしていただけるのも嬉しかった」とのコメントをいただきました。全員の記載を合わせると、大事なことを漏れなく幅広くカバーできるだけでなく、私自身も新たな視点に、毎回、教えられること、学ぶことが多かったです。</p> <p>「テストに出そうな重要なポイントをもう少しわかりやすく教えて欲しい。全て大事なところなのはわかっています。」←公衆衛生は範囲が広すぎて、大事な点多すぎて、ポイントを押さえにくいですね。毎回授業で配布している学習シートのキーワードから試験に出します。大事な点は、授業でも強調しているつもりですが、さらに意識します。授業中に学習シートに大事な点を書き留めるなど、上手に活用してもらえたらと思います。</p> <p>「スライドを紙でも欲しかった」「毎時配布資料は用意して欲しい」←必ず事前にmanabaにフルスライドを掲載しています。紙の管理は大変なので、ペーパーレスで資料をうまく管理・活用する仕組みを整える教材として活用いただけると嬉しいです。良ければ、私の工夫を伝授します。</p> <p>これからも、気がついた点を教えてもらい、一緒に考えながら、より丁寧でわかりやすい授業に努めます。2年次の保健医療福祉総論でお目にかかることを楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床病態学Ⅱ（病態解析）				
担 当 者	井本 しおん、松尾 雅文、中野 正祥、南 康博、塩谷 英之、味木 和喜 子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.2	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。「臨床の現場で患者さんと向き合ってきた先生方からのお話を聴けて、すごく貴重な機会を頂いたと思った」とのコメントをいただきました。ありがとうございました。教科書を中心に味木が一人で担当する「臨床病態学Ⅰ」とは異なり、専門性の異なる複数の教官から、専門的な最新の講義を受けることができます。臨地実習に出る前に、より知識を深め、より実践的な内容となるよう、引き続き努めてまいります。「臨床病態学Ⅲ」も専門講義です。楽しみにしてください。（味木）</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生理学Ⅱ				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身 (3.8/3.9: 当科目平均 / 学科平均とする)、Ⅱ授業内容 (3.8/4.3) およびⅢ授業方法 (3.8/4.3)、Ⅳ学習成果 (4.0/4.3) およびⅤ総合評価 (4.0/4.3) のように、学科平均を下回りました。今年度の大きな特徴は、学生自身の項目で学科平均と同等のポイントが得られたことで、専門基礎科目でありながら自分自身でよく勉強してくれたことにあります。今後はさらに取り組みやすい課題を出題するようにします。「聞きやすい話し方」(3.6/4.3) は0.7ポイント下回っていて、例年ではありますが、マイクをうまく使用するなど最優先に改善したいです。自由記述にご意見をいただいている大半は、試験特集号をもっと早く出してほしいということでした。今までのすべての教科の中で一番遅い時間でしたので、これはまず改善します。この件が総合評価にやや影響した可能性もあります。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	環境生理学				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.2	3.7	3.6	3.7	3.7	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。I 学生自身 (3.2 / 3.9 : 当科目平均 / 学科平均とする)、II 授業内容 (3.7 / 4.3) および III 授業方法 (3.6 / 4.3)、IV 学習成果 (3.7 / 4.3) および V 総合評価 (3.7 / 4.3) のように、学科平均を下回りました。今年度の特徴は、学生自身の項目で学科平均も大きく下回ったことです。これは労働衛生学 I という内容が重複する科目を、本年度から私が担当することになったため、そちらを中心に勉強することで環境生理学の勉強を兼ねようする動きがあったからだと思います。授業評価ポイントから 2 つの教科の相乗効果が上がったとは思えませんが、第 1 種衛生管理者必須科目の項目はよく覚えられたと思います。自由記述に「労働による健康障害について学ぶことができてよかった」というご意見をいただき、とてもうれしかったです。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	血液検査学Ⅱ				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	3.6	3.7	3.8	3.7	
学生へのメッセージ					
o-horie@kobe-tokiwa.ac.jp					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	血液検査学Ⅱ				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	3.6	3.7	3.8	3.7	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身 (3.3 / 3.9 : 当科目平均 / 学科平均とする)、Ⅱ授業内容 (3.6 / 4.3) およびⅢ授業方法 (3.7 / 4.3)、Ⅳ学習成果 (3.8 / 4.3) およびⅤ総合評価 (3.7 / 4.3) のように、学科平均を下回りました。授業評価ポイントとしては低いので該当するの判断は難しいですが、Ⅲ授業方法とⅣ学習成果は多少なりとも上がっているようでした。これから長く学んでいく血液検査学なので、学習成果があがっているのはとても喜ばしいことです。自由記述にスライドを manaba にあげてほしい旨の意見がありました。すぐに対応したいと思います。スライドは前日の朝まで改訂していることがあるので、改訂→印刷→manaba up がスムーズにできないこともあります。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	労働衛生学 I				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	3.6	3.5	3.7	3.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身 (3.3 / 3.9 : 当科目平均 / 学科平均とする)、Ⅱ授業内容 (3.6 / 4.3) およびⅢ授業方法 (3.5 / 4.3)、Ⅳ学習成果 (3.7 / 4.3) およびⅤ総合評価 (3.6 / 4.3) のように、学科平均を下回りました。授業評価ポイントとしては低いので該当するのかわ判断は難しいですが、Ⅳ学習成果は多少なりとも上がっているようでした。同時期に開講の「環境生理学」と重なる部分が多いので、一度覚えて時間の短縮につなげたり、理解を深めるのに活用するよう促していきます。スライドの中の単語穴埋めにおいて、解答を記入するのに動画を活用してほしいとの指摘がありました。ぜひ次年度は導入したいと思います。まとめ問題の解答の正誤に誤りがあるとのこと。最優先で対応します。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習ⅡA				
担 当 者	堀江 修・澤村 暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.4	4.3	4.2	4.3	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身（4.4 / 3.9：当科目平均 / 学科平均とする）、Ⅱ授業内容（4.3 / 4.3）およびⅢ授業方法（4.2 / 4.3）、Ⅳ学修成果（4.3 / 4.3）およびⅤ総合評価（4.2 / 4.3）のように、学科平均とほぼ同等の評価をいただきました。よかったところですが、「授業時間以外に学修した時間」（4.3 / 3.4）、「知的関心や好奇心を起こす内容であった」（4.33 / 4.29）、「レポートの判読などが適切であった」（4.5 / 4.4）と評価していただいたところで、たいへんうれしく思います。改善点は「聞きやすい話し方だった」（4.03 / 4.26）であり、この失点が全体の評価を下げているといっても過言ではありません。マイクを常時使うなり、聞きやすい話し方を心がけます。「この授業を受けて満足している」（4.23 / 4.35）で学科平均より少し低かったのも残念でなりません。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業・実習を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	検体採取安全管理演習				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.4	4.3	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では、近年の法改正より臨床検査技師に拡大された業務（タスク・シフト/シェア）の多くを皆さんに学んでいただきました。業務の特性上、侵襲を伴う手技の修得だけでなく、患者さんや他の医療従事者とのコミュニケーション、関係法規、医療倫理など、他の専門科目と比較してもさらに臨床的かつ専門性の高い内容であったと思います。</p> <p>限られた授業回数で、多くがトレーニングモデルを用いた手技練習にとどまりましたが、それでも臨床検査技師として医療現場で実際にこのような業務に従事するにあたっては、卒前教育で1度でも経験していることに大きな意義があります。そのことは、授業評価の「① この授業でよいと思った点：模型だったが、実際にどのように行うのか体験できて良かった。」というご意見から、受講生にも浸透していることが伺えました。</p> <p>チーム医療の推進が図られる医療において、このようなタスク・シフト/シェアの業務に象徴されるような役割が臨床検査技師にますます求められていきますので、本授業の経験を生かしていただきたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習ⅡB				
担 当 者	堀江 修・澤村 暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身 (4.3 / 3.9 : 当科目平均 / 学科平均とする)、Ⅱ授業内容 (4.5 / 4.3) およびⅢ授業方法 (4.5 / 4.3)、Ⅳ学修成果 (4.5 / 4.3) およびⅤ総合評価 (4.5 / 4.3) のように、すべての項目において学科平均を上回る評価をいただきました。しかも細項目でもすべて上回ったのはこの大学に就任して初めてです。よかったところですが、「授業に意欲的に参加した」(4.54 / 4.36)、「知的関心や好奇心を起す内容であった」(4.46 / 4.29)、「レポートの判読などが適切であった」(4.46 / 4.4) と評価していただいたところで、たいへんうれしく思います。A組では改善点あった「聞きやすい話し方だった」は(4.40 / 4.26)であり、B組ではとても良い評価をいただき、次回どのように対応するかが悩ましいところです。「この授業を受けて満足している」(4.46 / 4.35)であり、学科平均より高く、もちろんA組よりずっと高かったです。この調子で頑張りたいと思っています。自由記述の中に見にくい標本があったとのこと。標本の更新をどのように行うか、現在思案中です。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業・実習を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習ⅡAB				
担 当 者	堀江 修・澤村 暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身（4.3/3.9：当科目平均 / 学科平均とする）、Ⅱ授業内容（4.4/4.3）およびⅢ授業方法（4.3/4.3）、Ⅳ学修成果（4.4/4.3）およびⅤ総合評価（4.4/4.3）のように、すべての項目において学科平均を上回る評価をいただきました。ほとんどすべての細項目で上回っていました。よかったところですが、「授業に意欲的に参加した」（4.49/4.36）、「知的関心や好奇心を起す内容であった」（4.40/4.29）、「レポートの判読などが適切であった」（4.47/4.4）と評価していただき、たいへんうれしく思います。AB組共通では「聞きやすい話し方だった」（4.23/4.26）となり、学科平均を下回った唯一の細項目となりました。両組で評価が分かれた原因を再度確認し、「聞きやすい話し方」となるよう努力します。両組を平均して「この授業を受けて満足している」は（4.35/4.35）であったので、少しでも満足度の高い授業・実習となるよう研鑽を積みます。最後に、今までなかなかできなかったのですが、「学生の顔を見て授業・実習を行う」を目標にして次年度に臨みます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	医療工学実習				
担 当 者	関 雅 幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.0	4.2	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>学生による授業評価調査は「授業はわかりやすい内容であった。」「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。」という事柄に対して課題が残る結果となりました。</p> <p>全員ではありませんが、実習後の後片付けがちゃんとできていないケースがありました。これはオリエンテーションでも話したかと思いますが、臨地実習で病院に伺う際に困る場合が出てきます。実験が終わればいいのではなく、片づけまでやって実習です。2年では実習が増えていきますので、しっかり行ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	ロボティクス演習				
担 当 者	関 雅 幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.6	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>学生による授業評価調査は「板書、スライド、教材などの使い方は適切だった。」や「授業はわかりやすい内容であった。」の事柄に対してやや課題が残るという結果になりました。</p> <p>卒業研究の前に問題解決等について経験できたことは、よい予習となったのではないかと思います。来年度の更なる飛躍を楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	免疫検査学				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.0	4.0	3.9	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、臨床検査技師国家試験の主要科目である「臨床免疫学」および「臨床検査医学総論」のうち、免疫と深く関わる病態や免疫学的検査法を扱う専門科目です。臨床検査技師を目指す皆さんにとって、国試合格には本分野の確かな学修到達度が欠かせません。本授業を理解するうえでは、2年前期「免疫学」で学んだ基礎が非常に重要です。そこで、同科目でお伝えしたメッセージの要点を再掲します。</p> <p>■「免疫学」でのメッセージ (要点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免疫学は医学の中でも特に進歩が著しい分野である。 ・免疫が関与する疾患の理解や免疫を利用した治療法は年々発展している。 ・それに伴い、臨床検査にも新しい検査項目・技術が導入され続けている。 ・臨床検査技師として医療に携わる上で、生涯にわたり新しい知識を学び続ける姿勢が求められる。 <p>■ 寄せられたご意見</p> <p>今回の授業評価アンケートでは、「免疫学」に続き「資料が豊富であること」を共通の特徴として、以下のような肯定的なご意見をいただきました。</p> <p>【① よかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や説明がとても丁寧だった。 ・レジュメ・動画・過去問が充実しており、復習しやすく、試験後の学習にも使える。 <p>一方で、同じ点から次のような改善要望もいただきました。</p> <p>【② 改善すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報量が多く、どこが大切かわかりにくかった。 ・スライド枚数が多いため、試験対策として要点プリントが欲しい。 <p>これらのご指摘についても、「免疫学」で述べたメッセージがそのまま当てはまります。『初学者がまず要点は何かを知るためには、あえて詳しい説明を排した簡素なスライドの提示もひとつの方法ではあります。しかし、最終的に国試問題を正答できる到達度を考えた場合、要点とその周辺を「理解する」ことが必要です。本授業の資料は、そのような学修に必要な情</p>					

報をなるべく漏れなく提示することを意識して作成しています。4年生で国試に向けて総復習する際にも、活用していただければと思います。』

■ 資料量が多くなる理由と、今後の改善について

試験で問われやすい要点を示すだけでなく、その背景や根拠まで含めて「理解できる形」で提示するため、どうしても資料ページが多くなります。口頭説明だけで補う方法もありますが、限られた授業時間の中では、必要な情報を資料として可視化して共有する方が学習しやすいと考えています。その一方で、資料が多いことで理解が追いつきにくい学生がおられることも事実です。

すでに資料中に、「国試」「重要」「参考」「発展」などのタグ付けは行っていますが、今回いただいたご意見を踏まえつつ、資料の見やすさや重要度の伝わりやすさについて、今後も改善できる点がないか検討していきたいと思います。

(伊藤洋志)